

第5章 公園配置のビジョン

第5章 公園配置のビジョン

5-1 公園配置のビジョン

第3章においてとりまとめた公園配置の考え方について、具体的な公園空白地区や新設公園の位置、優先的にリニューアルを進めるみどりのシンボル拠点の位置などの位置関係が分かるように図に示しました。(図5.1)

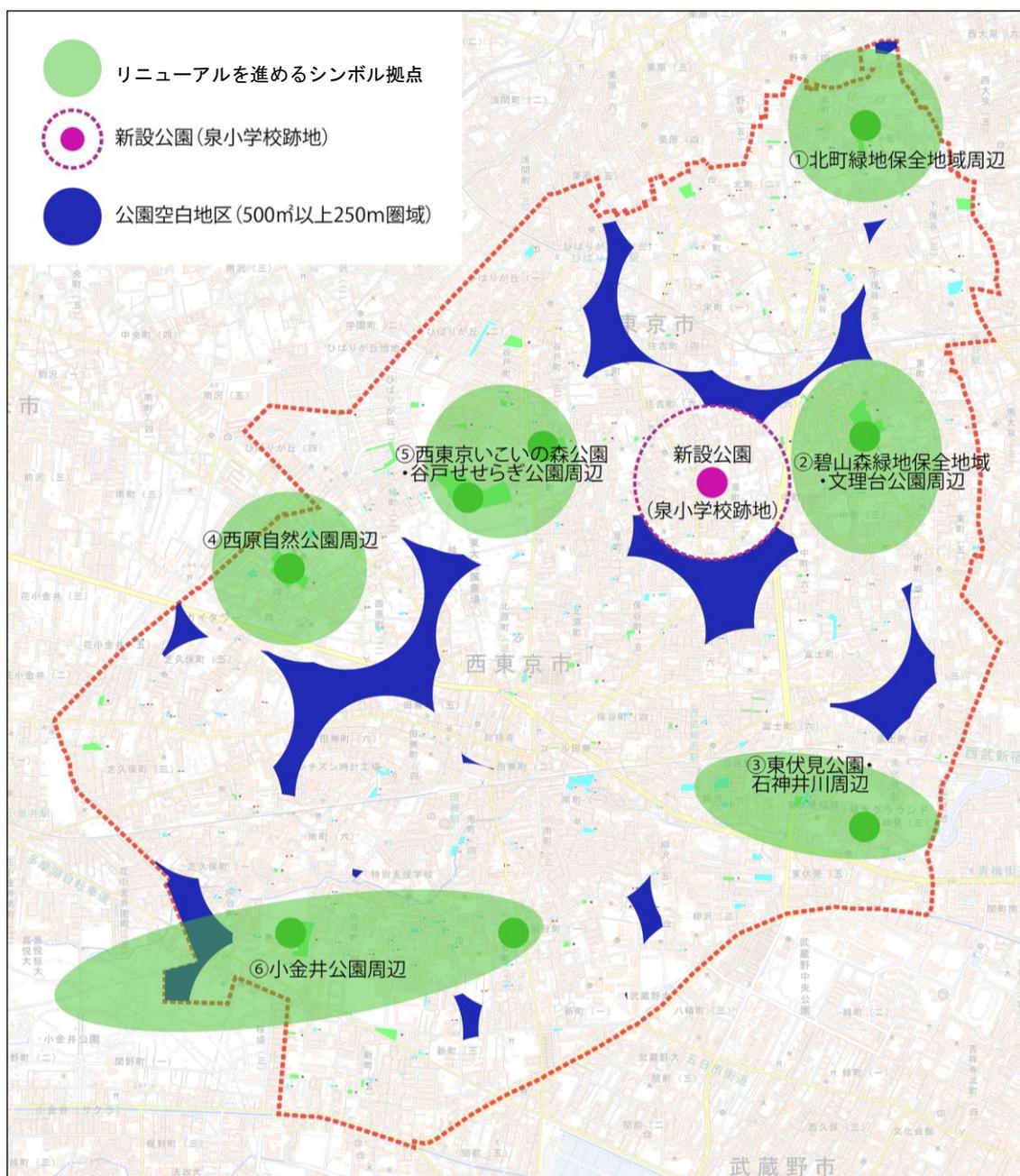


図 5.1 公園配置に関する位置関係図

このように先行的にリニューアルを進めるみどりのシンボル拠点と新設公園の整備予定である泉小学校跡地、今後優先的に整備を進めていく公園空白地区の位置関係は、比較的バランス良く配置されている状況が分かりました。公園空白地区の割合は市域の約 9.6% (約 1.5K m²) でした。

今後は、みどり基金を活用し、その時にもっとも優先的に整備が必要な事項を精査し、整備を進めていくことになります。

市内全域の公園を一度にリニューアルしたり活性化することは困難ですが、市民との協働により、公園をまちの資産として、これまで通りの使い方ではない、新たな利用の方法についても共に考えていきます。

■公園配置計画の考え方のまとめ

- ・ みどりのシンボル拠点を優先的にリニューアルします
- ・ 比較的大きな公園が周辺に無いところを公園空白地区として優先的に公園の整備を進めます
- ・ 老朽化した遊具などの施設の撤去や更新は地域のニーズにあった更新を推進します
- ・ 老木の伐採や適切な樹木の管理により、良質なみどりを確保します
- ・ 市民との協働や民間活力を活用して市民サービスの向上に努めます
- ・ あまり利用がみられない小規模公園や緑地では市民活動の場として利用できるようにサポートや規制の緩和等を検討します
- ・ 開発に伴う緑地を設置する必要がないと定める基準づくりや金銭納付が可能となる基準の見直し、みどり基金の活用範囲の見直しなどを行います
- ・ 収益施設の設置やネーミングライツ等、公園を活用した収益事業を検討します
- ・ 指定管理区域の拡充を進め、市民サービスの向上に努めます

5-2 公園づくりで「健康」に

「健康」応援都市の目指す公園づくりとは、市民協働の公園づくりを通して、社会参加やつながりの機会をつくるとともに、地域の公園を拠点にまち全体の健康づくりを推進することです。

市の応援する健康とは、市民の身体と心の健康と、まち全体の健康の両方から成り立つものです。市民ワークショップの参加者の一人が「仲間と一緒に公園づくりの活動に取り組んでいる自分たちは、身体を動かすだけでなく、生きがいを持てたり、地域の人と交流することで、さらに「健康」になっている気がする」と話してくれました。

市が取り組んでいる市民協働の公園づくりは、市民の活動を通して、地域に運動、つながりづくり、生きがいづくり、社会参加の機会等を創出することで、少しずつ自分たちの手で生活環境を豊かなものに変えていき、まち全体の健康づくりの実現を目指すものです。公園づくりの活動に参加することは、楽しみながら自らの健康づくり、さらにまちの健康づくりに取り組むことであり、そのことが自分の人生を豊かにすることにつながります。

そのような視点から、公園づくりの活動に参加する市民を増やすために、公園のサイズごとに、「公園配置計画の方針」、「課題」、「解決のアイデア」をまとめました（図 5.2）。

図 5.2 を活用することで、市民が生活の中で自分が関わり得る公園をサイズごとにリストアップし、それらの「課題」や「解決のアイデア」を知り、どのように活用すれば自分たちの生活をさらに楽しく豊かなものにできるのかを考え、市民同士で話し合うことができます。

市民の皆さまが、この計画書の内容を自らの生活に役立て、さらには公園を活用した豊かな生活や人生について友達や家族とともに話し合いながら、「健康」応援都市の目指す公園づくりの活動に参加してくれることを期待します。

※XS・S・M・Lの区分は、平成28年に実施した公園実態調査のサイズ区分による

	共通	XSサイズ(100㎡未満) ・1～3人で使ってみよう ・30帖のリビング	Sサイズ(100～300㎡) ・10人で使ってみよう ・100帖の大広間
公園配置計画の方針		【基本方針③】 ・老朽化した公園配置等はニーズに合った更新をしよう 【基本方針⑤】 ・小規模公園や緑地を魅力的に使いこなそう 【基本方針⑥】 ・財源確保の方法を検討しよう	
課題	◆維持管理費を抑えながらできる、魅力的な公園づくりとは？ 【ハード】 ・植栽やベンチ、遊具、トイレ等の公園設備の管理をさらに充実させたものにしたい 【ソフト】 ・維持管理費を抑えながら魅力的な活用や運営ができるようにしたい ・公園づくりの活動を充実させるため情報発信を充実させていきたい	◆活用のみられない小さな公園の使い方とは？ 【ハード】 ・ベンチや遊具など何もない公園は、使い方がイメージできない ・植栽のない緑地もあり、みどりの質を確保していきたい ・開発により小さな緑地や公園が提供される際には、地域に本当に必要なのか十分に議論していきたい 【ソフト】 ・小さい緑地や公園はほとんど使われていない ・小さすぎて公園であることが地域に認知されていない	
解決のアイデア	◆公園で楽しく活動する人を増やそう！ 【市民ができること】 ・公園づくりの活動を実践し、活動に参加する楽しさを伝えよう ・地域みんなで公園の使い方や運営方法を考え、実践しよう 【市民と公園管理者が協働してできること】 ・講座などを開催し、公園づくりの知識やスキルを持った市民を増やそう ・市民の公園づくりの活動のバックアップや情報発信を行おう ・みどり基金の充実やみどりの質の確保に向けて協議を行おう	◆小さな公園をクリエイティブに使いこなそう！ 【市民ができること】 ・公園の使い方のイメージが広がるアイデア集をつくろう 【市民と公園管理者が協働してできること】 ・アイデア集をヒントに、市民のアイデアを実現していこう ・市民の公園づくりの活動や想いを地域内外に発信していこう <アイデアの例> ・ベンチやテラスなどDIYで公園をつくろう ・ホップを育てクラフトビールづくりを行ったり、公園にBARをつくってみよう ・移動販売などをやってみたい事業者に貸してみよう ・ハーブや野菜等を育て食べられる地域の庭をつくろう ・ファーマーズマルシェや青空カフェをやってみよう ・小さな公園をつなぎ魅力的なウォーキングコースをつくろう	

新しい機能や
使い方に転換



M サイズ(300~500 m²) ・50人で使ってみよう ・200帖の球戯場(バレーボール)	L サイズ(500 m²~10,000 m²) ・100人で使ってみよう ・300帖の体育館以上(バスケットボール)
【基本方針③】 ・老朽化した公園配置等はニーズに合った更新をしよう 【基本方針⑥】 ・財源確保の方法を検討しよう	【基本方針①】 ・大きな公園は個性を生かしたりリニューアルをしよう 【基本方針②】 ・公園空白地区には新たな公園を設置しよう 【基本方針③】 ・老朽化した公園施設等はニーズに合った更新をしよう 【基本方針⑥】 ・財源確保の方法を検討しよう
◆地域の特性に合った公園の使い方とは？ 【ハード】 ・ベンチや遊具など公園設備や植栽の管理が行き届いていない公園がみられた 【ソフト】 ・ボール遊びや火気など公園での禁止事項が多い ・高齢化が進んでいる地域に遊具のある児童遊園があるなど地域のニーズと合っていないものもある	◆公園をさらに使ってもらうためのしくみとは？ 【ハード】 ・「あの公園に行きたい」と思えるような個性ある魅力的な公園が少ない 【ソフト】 ・広場があるのに禁止事項が多く、公園を自由に使えない ・子育て世代から高齢者まで、幅広い世代が使いたくなる公園が少ない
◆地域で話し合いながら公園のできる活動を増やしていこう！ 【市民ができること】 ・利用がみられる公園については、ルールづくりを行い、ボール遊びなど公園のできる活動を増やそう ・スポーツゴミ拾いなど、参加したくなるような清掃イベントを実施しよう 【市民と公園管理者が協働してできること】 ・地域で話し合いながら、公園設備をリニューアルしていこう（例えば遊具を健康遊具に変更） ・農地の隣の公園は、食をテーマに収穫した野菜を食べたりできるなど地域特性を生かした活用をしよう ・公園設備リニューアルのための地域のニーズの把握を行おう	◆公園で収益をあげる仕組みをつくろう！公園のファンやできる活動を増やそう！ 【市民ができること】 ・ルールづくりを行い、ボール遊びなど公園のできる活動を増やそう 【市民と公園管理者が協働してできること】 ・愛称をつけたり、魅力的な遊具や起伏をつくる等、公園に個性をつくろう ・公園の管理棟等を改修し、民間のカフェやお店を誘致することで公園で収益をあげる仕組みをつくろう ・公園の活動プログラムや空間の魅力でブランド化を図り、オリジナルグッズ等の販売や広告収入で収益をあげる仕組みをつくろう

既存の機能や
使い方を充実

図 5.2 公園のサイズごとの戦略一覧

※本計画書の人物写真は、承諾を得て掲載しています。